

POWER!

2025年
4月
vol. 93

令和7年(2025年)
4月20日発行

発行所 ● 日本薬剤師連盟
〒160-0004
東京都新宿区四谷4-3
四谷トーセイビル2階
TEL (03) 3225-3100
FAX (03) 3225-3200

発行月 ● 4月、7月、10月、1月

<https://www.yakuren.jp>

自由民主党薬剤師問題議員懇談会世話人会 並びに総会が開催される！

令和7年3月12日(水)、日本薬剤師会

の課題と要望を理解していただくため、
自由民主党本部において、自由民主党薬
剤師問題議員懇談会の世話人会と総会が



開催された。

●世話人会

12時より開催され、新たに都道府県薬
剤師連盟から推薦を受けた8名の国会議
員の入会が承認され、松本純元懇談会幹
事長の特別顧問就任が決定された。続い
て、「日本薬剤師会の課題と要望」につい
て、協議と意見交換が行われた。

●総会

午後4時より事務局長である本田顕子
参議院議員の進行のもと、本人65名、代
理74名が出席して、開催された。
鈴木俊一会長による開会挨拶の後、新規
入会者8名が紹介され、これにより懇談

会会員数は衆議院140名、参議院72名、
計212名となったことが伝えられた。

次に、会計報告が行われ、岩月日薬連盟
会長の挨拶に続いて、日本薬剤師会の原
口副会長から「日本薬剤師会の課題と要
望」として、「1. 国民患者の健康を守る
ために必要な医療を確保」「2. 物価・賃金上
昇に対応するために必要な財源の確保」
「3. 薬局DXの推進・実現のための支
援」「4. 地域医薬品提供体制の構築・実
現に向けた支援(安全・安心な医薬品提供
システムの確立)」「5. 薬機法改正案の
早期成立」「6. 医薬品供給不足問題の早
期解消」「7. 敷地内薬局の適正化」の7
項目が説明された。参加した議員から、



「参議院選挙までに、骨太の方針や補正
予算への対応にあらゆる手を打つ。我々
は国民と医療提供者の両方のことを考え
ている。」と課題解決に向けた理解を感
じられる発言があり、また、他の出席議
員からも多くの意見や質問が寄せられ、
活発な意見交換が行われた。

令和7年3月4日(火)、全国の現場
で働く薬剤師をはじめ、若手薬剤師、
女性薬剤師、薬学生・薬業関係者の約
1000名がネットに集結し「薬剤師の
ミライを考える」1000人大会議
議」が開催された。

Zoomのウェビナーを利用した初の
大規模な交流を目的とした集会にもか
かわらず、多くの薬剤師が参加した。当日
は、司会者の進行の下、最初に参議院議
員で薬剤師の本田あきこ議員が、就任か
ら5年を超える国政での薬剤師としての
活動、課題と感じていることや思いなど
を話された。そして、今回は薬剤師・薬学
生として3名の方に現地で参加いただき、
慶応義塾大学特任研究員の日高玲於氏、
薬局薬剤師2年目の佐々木里真氏、薬学
部3年生の秋本さくら氏が登壇して本田

あきこ議員と意見を交わした。
本田あきこ議員に対し、日高さ
んからは「薬剤師である政治家に
しかできない薬剤師のミライに向
けた取り組み」現場の薬剤師との
連携について、佐々木さんからは
「女性が多い薬剤師という職能に
おける女性のライフイベントとそ
の後のキャリア形成について」「さ
らに進む高齢化に伴う在宅におけ
る薬剤師として関わる医療のあり
方」について、秋本さんからは「薬
剤師を養成する役割を担う薬学
部・薬科大学の都心部集中や、行
政や教育機関の薬剤師の就業に向
けた課題や支援」「薬剤師の社会で
の多様な就業先と将来に向けての
アドバイス」などについて質問が

「～薬剤師のミライを考える～ 1,000人大会議！」開催

なされた。本田あきこ議員からは
薬剤師や薬業に関することは薬剤
師である議員が中心となって声を
上げている点や、現場からの意見
や取り組みは積極的に政治の場
の活動に反映している点、自由民
主党の女性局長としての立場や役
割も踏まえた女性の社会における
活躍の支援、薬学教育の現状や課
題解決に向けた方向性などについ
て率直かつ真摯な発言がなされた。
その後、Web参加の皆さんと
の間で質疑応答が行われた。テキ
ストベースでの質問への回答とい
う形式で行われたが、最も多かつ
た質問は、医薬品医療機器等法に
関してやOTC類似薬に関する
意見であった。合計100件に迫



るほどの意
見・質問があ
り、薬剤師の
ミライに対す
る参加の皆
さんの意識の
高さを窺い知
ることができ
た。
初めての取
り組みでは
あったが、本
田あきこ議員
の今までの活動や薬剤師議員として薬剤
師の活躍を支援したいという強い思いを
知ることができた貴重な機会となり、概
ね好評であった。このような企画は今後
も実施される予定である。

風力計



日本薬剤師連盟
副会長 大澤 泰輔

二つのハットー

去年の春頃から自動車学校で原付免許
講習の講師を始めました。県の公安委員
会の承認を取れば講師になれますが、その前
に自動車学校で学科についての復習をみつ
ちり受けたいとなりました。

原付免許は筆記試験・適性検査の合格だ
けではなく、自動車学校で実技二時間、座
学一時間の講習を受けないと免許証がも
らえません。実技試験がなく初心者による
事故が多いことからこのようなシステム
になったと思われます。また、昔はなかつ
たのですが、「原付二段階右折の道路標識
がある交差点もしくは「片側三車線以上
の信号機がある交差点」において、原付は
二段階右折をしなければならなくなっ
ていることから窺えます。その方法は、道
路の左側に沿って青信号で交差点の向こ
う側に渡り、そこで右に方向を変えて待機
して、前方の信号が青になってから渡ると
いうもので、いわば歩行者と同じ渡り方
をするということです。普通免許を持ってい
らっしゃる読者の皆様も道路交通法上は
原付にも乗れますが、「二段階右折」をご存
じでしたか？普通自動車の免許を取る時
に、自動車学校では学科で教わっている
はずですが、忘れていた方も多いと思い
ます。高校卒業を機に進学や就職などで普
段の足として原付免許を先に取得したい人
達にとっては、原付免許講習は必須とな
ります。受講生は若い方ばかりでバイクに
乗るのが初めてという方がほとんどです。
最初は怖くて発進、停車がうまくできな
い方が、二時間の実技講習で法規を順守
して普通に走れるようになるのを見ると、私も
やり甲斐を感じます。

これからも①本田あきこ後援会活動
を通じて我々の目標を達成する、②自動車学
校は免許証を取得する所ではなく身を守
るための安全運転を教える所である、をモ
ットに尽力していきたいと思っています。

JPLフォーラム2025開催される!

Japan Pharmacist Ladies

令和7年2月9日(日)午前11時よりAP日本橋においてJPL(Japan Pharmacist Ladies)フォーラムが『続・20万本の花を咲かせよう』をテーマに開催された。

福森総務の司会のもと、初めに岩月会長が挨拶され、続いて来賓として神谷政幸参議院議員、渡邊美知子日本女性薬剤師連盟会長より挨拶をいただいた。

特別講演は本田あきこ参議院議員より、熱のこもった30分間の講演が行われた。

次に橋本常任総務より「セブンスターズの活動報告」、大原副幹事長よりスモールグループディスカッション(SGD)の「趣旨説明」があり、参加者である都道府県薬剤師連盟の女性代表はそれぞれブロック別のグループに分かれて、SGD1として『2024の成果と反省』について50分間(昼食、グループごとの写真撮影含む)、続いてSGD2『若手薬剤師フォーラム2024参加者との連携について』55分間ディスカッションが行われた。

10分間の休憩を挟んで、大澤副会長による「後援会名簿収集の現状について」、竹本総務による「本田あきこ知名度アンケート説明及び趣旨説明」があり、SGD3『本田あきこ知名度アップ作戦』として80分間のディスカッションを行い、各グループ5分の持ち時間で発表が行われ、川田幹事長に総評をいただいた。

その後、本田あきこ参議院議員の決意表明、セブンスターズによる力強い掛け声、丹羽副会長の挨拶で閉会となった。

続・20万本の花を咲かせましょう!!

～47の本田あきこ物語～

開会



来賓挨拶



本田あきこ議員
特別講演



セブンスターズ
報告



スモールグループ
ディスカッション
趣旨説明



Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



Eグループ



Fグループ

後援会活動について



アンケート説明等



総評



決意表明



閉会



●第27回参議院議員通常選挙 比例代表選出議員選挙 公認候補予定者
公認 26名(現14名、新12名)

令和7年3月8日現在

	公認候補者	年齢	区分	経歴・支援団体等	出身地
1	赤池 誠章	63	現	2期 日連宗、専修学校等	山梨県
2	有村 治子	54	現	4期 神道政治連盟・小売酒販団体	滋賀県
3	石田 昌宏	57	現	2期 元看護連盟幹事長	奈良県
4	佐藤 正久	64	現	3期 元防衛政務官	福島県
5	山東 昭子	82	現	8期 元科学技術庁長官	東京都
6	田中 昌史	59	現	1期 日本理学療法士協会理事	北海道
7	中田 宏	60	現	1期 前横浜市長、元衆議院議員	神奈川
8	橋本 聖子	60	現	5期 オリンピック選手	北海道
9	比嘉奈津美	66	現	1期 歯科医師連盟、元衆議院議員(2期)	沖縄県
10	本田 顕子	53	現	1期 日本薬剤師連盟	熊本県
11	舞立 昇治	49	現	2期 総務省職員	鳥取／島根合区
12	宮崎 雅夫	61	現	1期 全国土地改良政治連盟顧問	兵庫県
13	山田 太郎	57	現	2期	東京都
14	和田 政宗	50	現	2期 元NHKアナウンサー	東京都
15	畦元 将吾	66	新	元衆議院議員(2期)、日本診療放射線技師会顧問	広島県
16	阿部 恭久	65	新	全日本遊技産業政治連盟会長	埼玉県
17	犬童 周作	57	新	全国郵便局長会相談役	熊本県
18	釜蒔 敏	71	新	日本医師会副会長	群馬県
19	見坂 茂範	56	新	元国土交通省近畿地方整備局長	兵庫県
20	斉藤 正行	47	新	全国介護事業者連盟理事長	奈良県
21	繁本 護	52	新	元衆議院議員(1期)、元国土交通省職員	兵庫県
22	杉田 水脈	57	新	元衆議院議員(3期)	兵庫県
23	長尾 敬	62	新	元衆議院議員(3期)	大阪府
24	東野 秀樹	53	新	道北なよろ農業協同組合会長理事	北海道
25	福山 守	72	新	元衆議院議員(3期)	徳島／高知合区
26	宮窪 大作	50	新	全国商工政治連盟中小・小規模企業振興本部長	富山県

(現職・新人別五十音順)

事務担当者会議が開催される！

令和7年2月13日(木)午後1時30分より本田あきこ中央後援会主催の事務担当者会議がWebにて開催された。全国の本田あきこ都道府県後援会及び都道府県薬剤師連盟の事務担当者及び担当者等が参加した。

会議は浜田副会長の進行により進められ、岩月会長の挨拶に続き、日本薬剤師連盟の顧問の橋爪雄彦弁護士に「公職選挙法と後援会活動について」と題してご講演いただいた。これから更に活動が活発化する後援会活動を実施していく上で、公職選挙法の内容を十分理解した上で適切に実施していくにあたってのポイント等が解説され、活動に関して疑問点等を持つ担当者の課題が解消されたものと思われる。

続いて、大澤副会長より「名簿収集活動について」と題して説明が行われた。名簿収集の現状についての解説に加え、今後さらに積極的に活動していく必要性についての話もあった。また、各担当の副会長から「支援団体等について」、「選挙活動マニュアルについて」、「SNS対策等について」の説明があった。

その後、川田副会長(日薬連盟幹事長)から「今後の後援会活動に関するスケジュールについて」の説明とともに現況についての話があり、取り巻く環境は非常に厳しいが、想定した目標の達成に向けた活動が重要であり、全力での活動をお願いしたい旨の依頼があった。

最後に、今井常任幹事が力強いコールを行い、心ひとつに全力で活動することを確認し、終了した。

オレンジ日記

参議院議員・薬剤師 本田顕子



令和7年3月9日 次期参院選 公認証の交付

3月9日の自由民主党大会終了後、来る参議院選挙の公認証を石破茂総裁から受け取りました。党の公認自体は昨年7月に決定いただいていましたが、公認証を手にして改めて今こそ立党の精神「政治は国民のもの」に立ち返る決意を強くいたしました。

新年を迎えてから年度末に至る3ヵ月間は、女性局長としての活動と参議院予算委員会への対応が主でしたが、令和7年度予算の年度内成立を果たしましたので、次は来年度予算の編成作業が本格化します。医療DXの推進、薬剤師の不足や地域偏在、そして処遇改善など、薬剤師を取り巻く課題は山積しており、さらに今年度は薬価・診療報酬の通常改定も控えています。6月の「骨太」の策定に向けて、これからも日本薬剤師連盟および全国の薬剤師連盟の皆様のご指導・ご支援をいただきながら精一杯頑張ってまいります。

2025年初頭に巳年に因んで女神ヒュギエイア(ハイジア)に倣い、国民のいのちと暮らしを守るために力を尽くす決意の挨拶をさせていただきました。

年度が変わり、見込みではあと100日です。

日本薬剤師連盟および都道府県薬剤師連盟の皆様には、日頃からのご指導・ご支援に加え、各種資材類の配布やSNSを通じた広報、名簿収集、さらには2月から始まりました重点地区訪問では内容の濃いスケジュールをご用意いただき、役員の皆様を中心にPOWERを広げていただいております。

“薬剤師が政治を忘れたら、政治から薬剤師が忘れられる”

共に頑張ってまいりましょう。



政幸だより

参議院議員・薬剤師 神谷政幸



薬機法改正について

今国会に薬機法改正案が提出されます。今回の政幸だよりでは、国民への医薬品の適正な提供のための薬局機能の強化等の必要な措置についてご紹介します。

少子高齢化の進展に伴い医療需要が増大する中で、薬局・薬剤師の対人業務を充実させるとともに、医療安全の確保を前提に専門的知識を有する薬剤師等の人材の有効活用を図るため、以下の法改正が行われます。

遠隔管理下での販売については、委託元の薬剤師等による遠隔での管理の下、あらかじめ登録された薬剤師等が常駐しない店舗(登録受渡店舗)において医薬品を保管し、購入者へ受け渡すことが可能となり、医薬品の販売は委託元の薬局や店舗販売業者が行いますが、販売に関する責任は、原則として委託元の薬局や店舗販売業者が有することとなります。遠隔販売は医療安全の確保を前提に行われることから、施行後の安全確保については注視してまいります。

濫用のおそれのある医薬品については、販売時薬剤師等に、他の薬局等での購入の状況、氏名・年齢、多量購入の場合の購入理由等の必要な事項の確認や、情報提供等が義務付けられます。また、20歳未満の方への大容量製品又は複数個の販売を禁止し、20歳未満の方への小容量製品の販売、又は、20歳以上の方への大容量製品若しくは複数個の販売は、対面又はオンラインでの販売が義務付けられます。陳列については、顧客の手の届かない場所への陳列となりますが、販売又は情報提供を行う場所に継続的に専門家を配置し、購入する医薬品と購入者の状況を適切に確認できる体制の整備が行われる場合は、専門家が配置される場所から目の届く範囲(当該場所から7メートル以内)への陳列も可能となります。

薬機法改正の議論や今後の運用等については、しっかりと対応してまいります。引き続き、ご支援の程、よろしくお願いいたします。

編集後記

政治力なくして 薬剤師の未来はない

平成10年にそれまでの「日本女子薬剤師会」を「日本女性薬剤師会」と改名。平成12年日本女性薬剤師連盟を設立しました。初代会長秋島ミヨ先生の後、平成16年に第2代目会長近藤芳子先生が連盟の会長となりましたが昨年11月に92歳で他界されました。

近藤先生は、いつも「政治力なくして薬剤師の未来はない」と語っていた。また「なぜ女性なのか」を問われたとき他の職能団体と差別化できる事業の一つとして、子育てや親の介護などで中途退職をせざるを得ない女性薬剤師の復職支援としての通信教育をスタートしたことです。女性の抱える問題はまだまだあります。医療にかかわる人材としての自覚、生涯にわたる研鑽を積むことにより女性薬剤師の将来像を想像した取り組みは今の薬業界に一石を投じたと思います。そこに連盟の活動もつながりました。そして、私も近藤先生に鍛えられました。

令和4年の薬剤師数は32万3690人、そのうち女性19万9507人で60%を超えています。施設別では薬局が18万8982人、こちらも60%を超え薬局薬剤師の割合が年々高くなっています。医療機関を取り巻いている職種はこの数の何倍もいることでしょう。投票権のある学生も2万人います。

今言えることは、近藤先生が大好きな本田あきこ参議院議員には「薬業界の代表」として、まだまだやっていただきたい仕事があります。「とても無いにっさんでも無い(笑)」本田あきこさんをよろしく願います。

(渡邊みち恵)

広報委員

原口 亨、丹羽 松弘
浜田 嘉則、橋本 昌子
和泉啓司郎、小屋敷淳子
山原 大輝、渡邊美知子